リリース先：大阪科学・大学記者クラブ、文部科学記者会、科学記者会、厚生労働記者会、厚生日比谷クラブ

2025 年 7 月 1 日
Ｎｏ．０００２５３

PRESS RELEASE

関西医科大学
KANSAI MEDICAL UNIVERSITY

縫合不能の腱板断裂に対する関節鏡視下小胸筋移行術で人工関節の回避に

【本件のポイント】

- **治療の難しい広範囲腱板断裂に対する関節鏡を用いた低侵襲で新しい手術術式**
- **優れた手術成績と予後に影響する因子を報告**
- **重症度の高い症例の機能改善、人工関節の回避に**

学校法人関西医科大学（大阪府枚方市 理事長・山下敏夫、学長・木梨達雄）附属病院スポーツ医学センター山門浩太郎センター教授は、縫合不能の腱板断裂に対する低侵襲で新しい関節鏡視下小胸筋移行術の成績を調査した研究結果を発表しました。詳しい研究概要は下記の別添資料をご参照ください。

なお、本研究をまとめた論文が「Arthroscopy」（インパクトファクター：4.4）に 6 月 10 日付で掲載されました。

■書誌情報	
掲　載　誌	「Arthroscopy」https://doi.org/10.1016/j.arthro.2024.10.013
論文タイトル	Arthroscopically Assisted Pectoralis Minor Transfer for Anterosuperior Massive Rotator Cuff Tear With Irreparable Subscapularis Tears Leads to Significant Improvement in Pain and Function at Short-Term Follow-Up.
筆　　者	Yamakado K

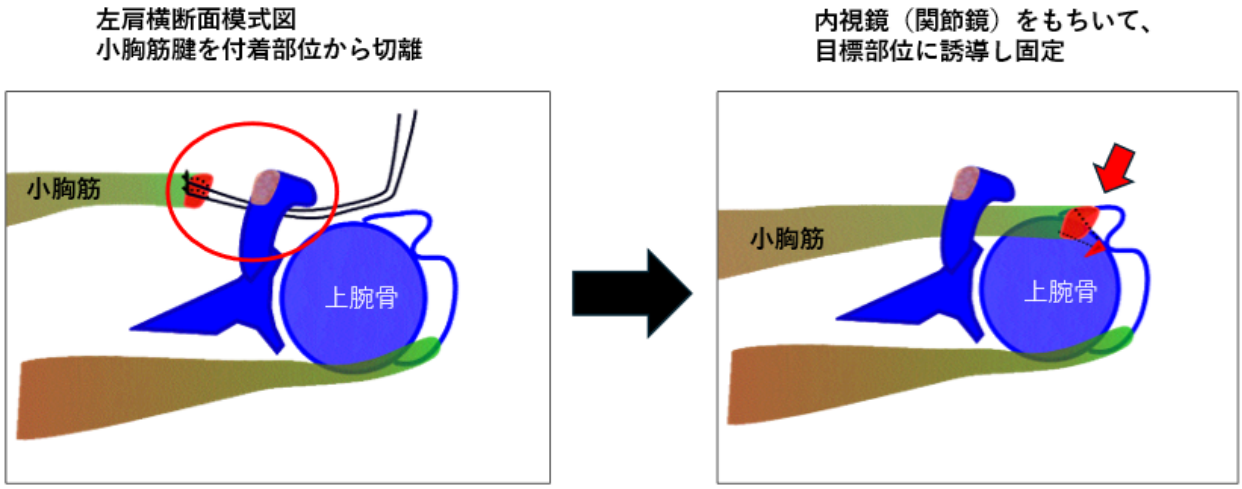
別　添　資　料

＜本研究の背景＞

肩腱板断裂は、国内で年間 15,000 件以上の手術が行われている頻度の高い疾患です。安静時痛や夜間痛など、日常生活に支障をきたす症状が特徴です。手術を行う場合、多くの腱板断裂は比較的容易に修復することができますが、縫合不能の肩甲下筋断裂を合併する腱板断裂は頻度こそ少ないものの難治です。人工関節が必要になる場合もあり、効果的な治療法が求められていました。

【本件取材についてのお問合せ】
学校法人 関西医科大学 広報戦略室（佐脇・両角・林）
〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1
電話：072-804-2128　ファクス：072-804-2638　メール：kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

我々は 2013 年に低侵襲な「関節鏡視下小胸筋移行術」を開発し、臨床経験を蓄積してきました。移行術とは機能を失った筋肉の代わりに他の部位の筋肉を移植する術式で、筋肉の付着部位（停止部）を移動させることから、「移行」と称されます（図）。本研究では、この術式の成績を報告するとともに、術式の限界を明らかにするため予後予測因子を統計学的に解析しました。



＜本研究の概要＞

74 例（平均年齢 69.4 歳）を最低 24 カ月追跡し、総合スコア、肩の可動域、疼痛ポイント全てにおいて有意な改善が得られました。重篤な合併症はありませんでした。多変量回帰分析において総合スコアと挙上角度の予測因子はそれぞれ術前の外旋角度と挙上角度であり、肩甲下筋断裂の重症度は有意な要因ではありませんでした。

＜本研究の成果＞

本研究の臨床的意義は、新たに開発された関節鏡視下小胸筋移行術が肩の痛みと機能の改善に有意な効果をもたらすことを示した点にあります。また、肩甲下筋断裂の重症度が予後因子として有意とならなかったことから、重症度の高い症例も治療対象となり得ることが示されました。今回の研究結果により、やむなく人工関節を選択されていた症例に対する治療法の選択肢が拡がると期待されます。

＜本件研究に関するお問合せ先＞

学校法人関西医科大学
附属病院スポーツ医学センター　センター教授
山門　浩太郎
大阪府枚方市新町 2-5-1
TEL：072-804-0101（代表）
E-mail：　yamakado.ktr@kmu.ac.jp

【本件取材についてのお問合せ】

学校法人 関西医科大学 広報戦略室（佐脇・両角・林）
〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1
電話：072-804-2128　ファクス：072-804-2638　メール：kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp